

# ナント地域経済調査結果【2013年1～3月期】

～ 奈良県内エリアの景気は未だ厳しい状況にあるが、改善の動きも窺える ～

## はじめに

地域の経済状況を把握する「ナント地域経済調査【2013年1～3月期】」を実施し、その結果を取りまとめました。本調査は、南都銀行各支店長に対するアンケート調査を通じて、地域の景気の水準・方向性を把握することを目的とするものです。

本調査において、奈良県（三重県名張市を含む）を北和・中和・東部・南和の4つのエリアに分け、大阪府、京都府、和歌山県は各府県を1つのエリアとしています。

### エリアと支店所在地および支店数

エリア	支店所在地（マル数字は支店の数）
奈良県	北和地区【31か店】 奈良市⑩、生駒市⑤、大和郡山市③、天理市③、生駒郡④
	中和地区【31か店】 橿原市⑥、大和高田市③、桜井市③、御所市③、香芝市③、葛城市②、北葛城郡⑥、磯城郡③、高市郡②
	東部地区【6か店】 宇陀市③、三重県名張市③
	南和地区【9か店】 五條市①、吉野郡⑧
大阪府【16か店】	大阪市⑥、東大阪市④、大東市①、八尾市①、羽曳野市①、河内長野市①、堺市①、泉佐野市①、兵庫県尼崎市①
京都府【14か店】	木津川市③、京田辺市③、京都市②、城陽市①、宇治市①、相楽郡③、綴喜郡①
和歌山県【7か店】	橋本市③、和歌山市①、紀の川市①、岩出市①、伊都郡①

\*支店が存在しない市町村がある。

### 【景気の水準・方向性の数値の算出方法】

景気の水準・方向性を「良い・改善＝2点」「やや良い・やや改善＝1点」「どちらともいえない・不変＝0点」「やや悪い・やや悪化＝-1点」「悪い・悪化＝-2点」の5段階で判断。エリア別の合計点を、すべて「良い・改善＝2点」とした場合の合計点で除した数値に100を乗じて算出。評価の最高は100、最低は△100となる。なお、支店規模に応じてウェイト調整を行っている。

## 1 景気の水準

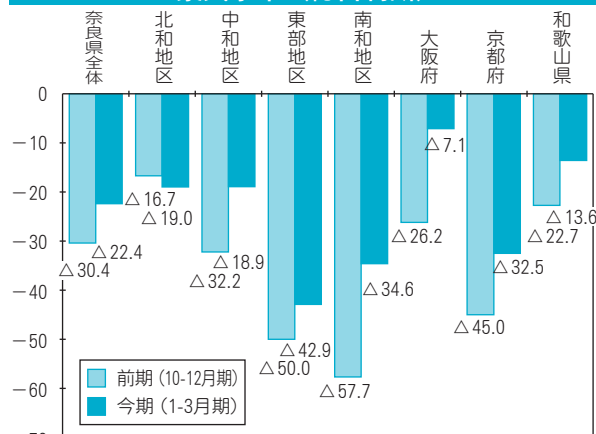
### 1. 総合判断

今期（1～3月期）の景気水準は、奈良県全体で△22.4となり、前期（10～12月期）より8.0ポイント改善した。これをエリア別にみると、中和地区が前期の△32.2から△18.9へ13.3ポイン

ト改善、東部地区が同△50.0から△42.9へ7.1ポイント改善、南和地区が同△57.7から△34.6へ23.1ポイント改善した一方で、北和地区は同△16.7から△19.0へ2.3ポイント悪化した。

他府県では大阪府が△7.1で19.1ポイント改善、京都府が△32.5で12.5ポイント改善、和歌山県が△13.6で9.1ポイント改善した。

### 景気水準（総合判断）



\*大阪府、京都府、和歌山県の営業エリアは、奈良県と異なり、府県域全体を対象としていない。

## 2. エリア別にみた項目ごとの景気水準

### (1) 北和地区

企業収益と企業の設備投資（いずれも△29.8）が低水準だが、県内の他地区と比較すると水準は高い。前期との比較では、企業収益（△16.7ポイント）と企業の設備投資（△7.2ポイント）が悪化した。それ以外の項目では改善がみられる。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△9.5	△15.5	△20.2	△13.1	△22.6	△27.4
今期 (1-3月期)	△6.0	△4.8	△14.3	△29.8	△29.8	△2.6

### (2) 中和地区

すべての項目で前期に比べ改善している。個人の資金需要（1.1ポイント）は若干の改善に留まったが、企業収益（12.2ポイント）と企業の資金需要（11.1ポイント）は大きく改善した。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△26.7	△24.4	△30.0	△42.2	△43.3	△43.3
今期 (1-3月期)	△18.9	△23.3	△21.1	△30.0	△34.4	△32.2

### (3) 東部地区

すべての項目が低水準であり、特に企業の4項目が低い。前期との比較においても、企業の4項目はすべて7ポイント程度の悪化となった一方で、個人では消費は横ばい、資金需要は7.1ポイントの改善となった。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△28.6	△35.7	△35.7	△50.0	△57.1	△42.9
今期 (1-3月期)	△28.6	△28.6	△42.9	△57.1	△64.3	△50.0

### (4) 南和地区

すべての項目において低水準であるが、前期との比較ではすべての項目で改善している。特に企業の収益(26.9ポイント)の改善が著しい。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△46.2	△61.5	△53.8	△61.5	△61.5	△50.0
今期 (1-3月期)	△30.8	△50.0	△34.6	△34.6	△42.3	△38.5

### (5) 大阪府

水準は他府県に比べて高く、個人消費は±0の状況である。前期との比較では、すべての項目で改善しており、特に企業の設備投資(26.2ポイント)と企業の生産活動(21.5ポイント)の改善が目立つ。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△7.1	△16.7	△31.0	△28.6	△42.9	△33.3
今期 (1-3月期)	0.0	△2.4	△9.5	△16.7	△16.7	△19.0

### (6) 京都府

個人の2項目は景気水準がプラスに転じる一方で、企業4項目は総じて低水準である。ただ、前

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△10.0	△5.0	△50.0	△52.5	△55.0	△47.5
今期 (1-3月期)	0.0	2.5	△37.5	△40.0	△35.0	△37.5

期との比較では、すべての項目で改善している。

### (7) 和歌山県

企業収益と企業の設備投資が比較的低水準。前期との比較では、企業の設備投資(9.1ポイント)が悪化した一方で、その他の項目はすべて改善した。

	個人		企業			
	消費	資金需要	生産活動	収益	設備投資	資金需要
前期 (10-12月期)	△13.6	△31.8	△18.2	△31.8	△18.2	△27.3
今期 (1-3月期)	△4.5	△18.2	△13.6	△22.7	△27.3	△18.2

## 3. 奈良県の特徴的事項

奈良県全体の景気水準は前期よりやや改善した。これをエリア別にみると、北和地区は僅かの改善に留まったが、中和地区、東部地区、南和地区では大きく改善した。その結果、景気水準(総合判断)は、これまでの北和地区・中和地区と東部地区・南和地区の2極化がやや弱まる結果となった。

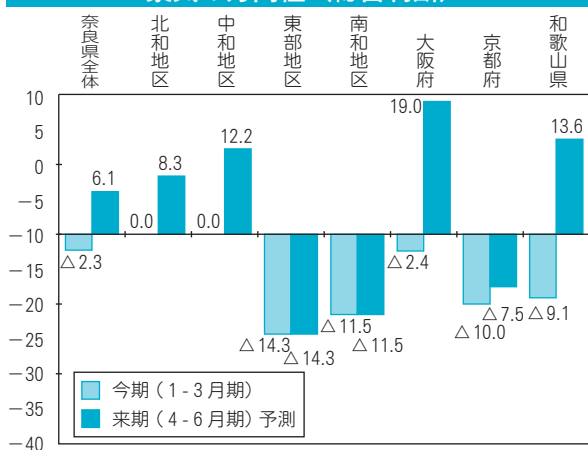
## 2 景気の方角性

### 1. 総合判断

前期から今期にかけての景気の方角性は、奈良県全体では△2.3となり、前期(△10.3)に引き続き悪化傾向にはあるが、悪化幅は改善した。これをエリア別に見た場合、北和地区と中和地区が不変(0.0)、東部地区(△14.3)と南和地区(△11.5)が悪化している。他府県では大阪府(△2.4)、和歌山県(△9.1)、京都府(△10.0)の順で悪化となった。

今期と比較した来期(4~6月期)の景気の方角性の予測は、奈良県全体では6.1となり、改善の予測。これをエリア別に見ると、北和地区(8.3)と中和地区(12.2)は改善と予測するが、東部地区(△14.3)、南和地区(△11.5)では悪化と予測している。また、他府県では、大阪府(19.0)と和歌山県(13.6)は改善予測だが、京都府(△7.5)は悪化の予測となっている。

景気の方向性（総合判断）



2. エリア別、項目別にみた今期および来期の方向性

(1) 北和地区

今期の方向性（前期との比較、以下同様）は、個人の資金需要は改善、企業の生産活動は不変、それ以外の項目は悪化となった。来期の方向性（今期との比較、以下同様）は、企業収益の悪化予測が減少するほか、すべての項目で改善予測。

		今期 (1-3月期)	来期 (予測) (4-6月期)	
個人	消費	△4.8	15.5	↗
	資金需要	1.2	9.5	↗
企業	生産活動	0.0	8.3	↗
	収益	△7.1	△3.6	↗
	設備投資	△1.2	0.0	↗
	資金需要	△2.4	1.2	↗

(2) 中和地区

今期の方向性は、すべての項目で悪化。来期の方向性は、個人消費と企業の生産活動を中

		今期 (1-3月期)	来期 (予測) (4-6月期)	
個人	消費	△1.1	10.0	↗
	資金需要	△3.3	5.6	↗
企業	生産活動	△1.1	12.2	↗
	収益	△8.9	5.6	↗
	設備投資	△5.6	3.3	↗
	資金需要	△12.2	5.6	↗

心に、すべての項目で改善予測となった。

(3) 東部地区

今期の方向性は、個人は2項目のうち1項目が改善、企業の4項目は悪化。

来期の方向性は、個人消費が悪化に転じる一方、企業の設備投資は悪化幅が縮小と予測。

		今期 (1-3月期)	来期 (予測) (4-6月期)	
個人	消費	0.0	△7.1	↘
	資金需要	7.1	7.1	→
企業	生産活動	△14.3	△14.3	→
	収益	△14.3	△14.3	→
	設備投資	△28.6	△14.3	↗
	資金需要	△14.3	△14.3	→

(4) 南和地区

今期の方向性は、すべての項目で悪化。

来期の方向性は企業の生産活動（不変）を除くすべての項目で悪化を予測するが、個人および企業の資金需要、企業収益については、悪化がさらに拡大する予測。

		今期 (1-3月期)	来期 (予測) (4-6月期)	
個人	消費	△7.7	△7.7	→
	資金需要	△3.8	△7.7	↘
企業	生産活動	△15.4	0.0	↘
	収益	△11.5	△15.4	↘
	設備投資	△19.2	△7.7	↗
	資金需要	△11.5	△23.1	↘

3 奈良県内の景気の水準および方向性のまとめ

今期の奈良県全体の景気水準は、前期と比較して僅かながら改善した。これをエリア別にみると北和地区はやや悪化したものの、中和地区、東部地区、南和地区は、厳しい状況にあるものの改善の動きも窺える。

今後の方向性については、消費マインドの改善、株式市場の好転や円安の進行などによりさらなる

## 景気の方向性

	総合判断		個人				企業							
			消費		資金需要		生産活動		収益		設備投資		資金需要	
	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)	今期 (1-3月期)	来期(予測) (4-6月期)
奈良県全体	△2.3	6.1	△3.3	8.9	△0.9	5.6	△3.3	7.5	△8.9	△1.9	△7.0	△0.5	△8.4	△0.9
北和地区	0.0	8.3	△4.8	15.5	1.2	9.5	0.0	8.3	△7.1	△3.6	△1.2	0.0	△2.4	1.2
中和地区	0.0	12.2	△1.1	10.0	△3.3	5.6	△1.1	12.2	△8.9	5.6	△5.6	3.3	△12.2	5.6
東部地区	△14.3	△14.3	0.0	△7.1	7.1	7.1	△14.3	△14.3	△14.3	△14.3	△28.6	△14.3	△14.3	△14.3
南和地区	△11.5	△11.5	△7.7	△7.7	△3.8	△7.7	△15.4	0.0	△11.5	△15.4	△19.2	△7.7	△11.5	△23.1
大阪府	△2.4	19.0	2.4	26.2	4.8	23.8	0.0	21.4	△7.1	16.7	2.4	19.0	△2.4	19.0
京都府	△10.0	△7.5	△2.5	5.0	△10.0	2.5	△12.5	△12.5	△12.5	△5.0	△22.5	△20.0	△25.0	△15.0
和歌山県	△9.1	13.6	4.5	13.6	△4.5	13.6	△4.5	4.5	△18.2	4.5	△13.6	△18.2	△4.5	△4.5

改善を期待する一方、電気料金の引き上げといったマイナス要因もあり、本格的な景気回復を見込むには、今しばらく時間を要するものと思われる。

(丸尾尚史)

### 調査の概要

#### (1) 調査方法 (2013年3月中旬～4月上旬実施)

南都銀行各支店長が、自店の営業範囲における地域経済の状況について、店頭での取引状況や取引先企業、自治体・商工会等へのヒアリングなどにより総合的に判断した。

#### (2) 調査項目

景気の水準と方向性に関して、個人の2項目(消費、資金需要)および企業の4項目(生産活動、収益、設備投資、資金需要)について5段階で評価し、その評価に基づき総合判断を行う。

#### (3) 対象エリア

大阪府(兵庫県尼崎市含む)、京都府、和歌山県については府県単位とし、奈良県は以下の4つのエリアに区分している。

- ①北和地区：奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市、生駒郡平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町
- ②中和地区：大和高田市、橿原市、桜井市、御所市、香芝市、葛城市、磯城郡川西町・三宅町・

田原本町、高市郡高取町・明日香村、北葛城郡上牧町・王寺町・広陵町・河合町

- ③東部地区：宇陀市、山辺郡山添村、宇陀郡曽爾村・御杖村、三重県名張市

- ④南和地区：五條市、吉野郡吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・野迫川村・十津川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村

#### <奈良県のエリア区分>

